

大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【高等専門学校】実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	G133110109770	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
高等専門学校名	津山工業高等専門学校	設置区分	国立	事業計画名	津山高専 オンライン活用による地域創成と未来展開型情報人材育成事業
学校種	高専	都道府県	岡山		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和6年度	10月各変更プログラム届出	3月14日学科改組の報告届出	令和6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	① 7月 教員等確保に係る国内各所を訪問 ② 10月 担当教員（教授）1名採用・人件費 ③ 10月 担当技術職員1名採用・人件費 ④ 10月 担当事務職員1名採用・人件費 ⑤ 10月 赴任旅費 ⑥ 10月 授業等実施のための会議システム設置 ⑦ 10月 授業等実施のためのOAフロア工事 ⑧ 10月 情報系画像解析装置の購入 翌年度に繰越（R7.2.7承認） ⑨ 10月 ネットワーク工事	① 9～3月 教員確保に係る国内各所を訪問 ② 10月 担当教員（教授）1名採用・人件費 ④ 1月 担当事務職員1名採用・人件費 ⑤ 10月 赴任旅費 ⑥ 3月 授業実施のための会議システム設置 ⑦ 2～3月 授業実施のためのOAフロア工事 ⑨ 2～3月 ネットワーク工事	③担当技術職員1名採用・人件費 公募を行ったが適任者からの応募が無く、採用にいたらなかった。引き続き担当教員確保に向けた取り組みを実施する。 ⑥情報系画像解析装置の購入 機種選定及び仕様策定を進めていたが、令和6年度中に契約・納品が間に合わず、実施できなかった。計画変更申請を行い承認通知を得ており、次年度は「情報系画像解析装置の購入」をする。	
令和7年度	令和8年3月 総合理工学科各プログラム配属定員、別表（教育課程表）に係る学則変更届出予定	令和8年4月 総合理工学科各プログラム配属定員、別表（教育課程表）に係る学則変更届出	令和7年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	① 4月 担当教員（教授）2名採用・3名人件費 ② 4月 担当技術職員2名採用・3名人件費 ③ 4月 担当事務職員1名人件費 ④ 4月 赴任旅費 ⑤ 4月 教員等確保に係る国内各所を訪問 ⑥ 10月 授業等実施のためのサーバーシステム等及びPC購入 ⑦ 10月 サテライト機材の購入 ⑧ 10月 情報系画像解析装置の購入（R7.2.7承認）	① 1.2～2月 担当教員（教授）2名採用・3名人件費 ② 4月 担当技術職員2名採用・2名人件費 ③ 4月 担当事務職員1名人件費 ④ 2月 赴任旅費 ⑤ 3月 教員等確保に係る国内各所を訪問 ⑥ 2～3月 授業等実施のためのサーバーシステム等及びPC購入 ⑦ 2～3月 サテライト機材の購入 ⑧ 12月 情報系画像解析装置の購入（R7.2.7承認） ⑨ 11月 ロボット制御プログラミング学習支援システム購入 ⑩ 11月 Mac Pro –タワーApple M2 Ultra購入		
令和8年度			令和8年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 担当教員（教授）3名人件費 ② 4月 担当技術職員3名人件費 ③ 4月 担当事務職員1名人件費 ④ 4月 担当事務補佐員1名採用・人件費 ⑤ 4月 非常勤講師6名謝金 ⑥ 4月 教員等確保に係る国内各所を訪問 ⑦ 4月 サテライト通信機材レンタル費用 ⑧ 4月 ロボット実験装置購入 ⑨ 4月 サテライト会場1レンタル費用 ⑩ 4月 サテライト会場2レンタル費用 ⑪ 4月 非常勤講師旅費			
令和9年度			令和9年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 担当教員（教授）3名人件費 ② 4月 担当技術職員3名人件費 ③ 4月 担当事務職員1名人件費 ④ 4月 担当事務補佐員1名人件費 ⑤ 4月 非常勤講師6名謝金 ⑥ 4月 教員確保に係る国内各所を訪問 ⑦ 4月 サテライト通信機材レンタル費用 ⑧ 4月 ロボット実験装置 ⑨ 4月 サテライト会場1レンタル費用 ⑩ 4月 サテライト会場2レンタル費用 ⑪ 4月 非常勤講師旅費			
令和10年度			令和10年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 担当教員（教授）3名人件費 ② 4月 担当技術職員3名人件費 ③ 4月 担当事務職員1名人件費 ④ 4月 担当事務補佐員1名人件費 ⑤ 4月 非常勤講師6名謝金 ⑥ 4月 サテライト通信機材レンタル費用 ⑦ 4月 ロボット実験装置購入 ⑧ 4月 サテライト会場1レンタル費用 ⑨ 4月 サテライト会場2レンタル費用 ⑪ 4月 非常勤講師旅費			
令和11年度			令和11年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 担当教員（教授）3名人件費 ② 4月 担当技術職員3名人件費 ③ 4月 担当事務職員1名人件費 ④ 4月 担当事務補佐員1名人件費 ⑤ 4月 非常勤講師6名謝金 ⑥ 4月 サテライト通信機材レンタル費用 ⑦ 4月 サテライト会場1レンタル費用 ⑧ 4月 サテライト会場2レンタル費用 ⑨ 4月 非常勤講師旅費			
令和12年度			令和12年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 担当教員（教授）2名人件費 ② 4月 担当技術職員2名人件費 ③ 4月 担当事務職員1名人件費 ④ 4月 担当事務補佐員1名採用・人件費 ⑤ 4月 非常勤講師6名謝金 ⑥ 4月 授業等実施のためのサーバーシステム等及びUPC更新 ⑦ 4月 サテライト通信機材レンタル費用 ⑧ 4月 サテライト会場1レンタル費用 ⑨ 4月 サテライト会場2レンタル費用 ⑩ 4月 非常勤講師旅費			
令和13年度			令和13年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 担当教員（教授）2名人件費 ② 4月 担当技術職員2名人件費 ③ 4月 担当事務職員1名人件費 ④ 4月 担当事務補佐員1名人件費 ⑤ 4月 非常勤講師6名謝金 ⑥ 4月 サテライト通信機材レンタル費用 ⑦ 4月 サテライト会場1レンタル費用 ⑧ 4月 サテライト会場2レンタル費用 ⑨ 4月 非常勤講師旅費			
令和14年度			令和14年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 担当教員（教授）1名人件費 ② 4月 担当技術職員1名人件費 ③ 4月 担当事務職員1名人件費 ④ 4月 担当事務補佐員1名人件費 ⑤ 4月 非常勤講師6名謝金 ⑥ 4月 サテライト通信機材レンタル費用 ⑦ 4月 サテライト会場1レンタル費用 ⑧ 4月 サテライト会場2レンタル費用 ⑨ 4月 非常勤講師旅費			
令和15年度			令和15年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 担当教員（教授）1名人件費 ② 4月 担当技術職員1名人件費 ③ 4月 担当事務職員1名人件費 ④ 4月 担当事務補佐員1名人件費 ⑤ 4月 非常勤講師6名謝金 ⑥ 4月 サテライト通信機材レンタル費用 ⑦ 4月 サテライト会場1レンタル費用 ⑧ 4月 サテライト会場2レンタル費用 ⑨ 4月 非常勤講師旅費			

フォローアップ対象年度	令和7年度	高等専門学校名	津山工業高等専門学校
-------------	-------	---------	------------

2.申請資格の確認

- i)

学生募集停止中の大学
- ii)

学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
- iii)

「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
- iv)

設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付けられている大学
- v)

大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学
- 上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	i)	ii)	iii)	iv)	v)
すべての項目に該当していない					

3.申請要件の取組状況

- ①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた高等専門学校であること。なお、新設予定の高等専門学校で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。
- ②

志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。
- ③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び高等専門学校での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）
- ④

特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。
- ⑤

計画の対象となる学科・コース等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。
- ⑥

特定成長分野のうち情報系分野に係る学科・コース等の設置・増員（学科の定員の増員を伴わないものを含む。以下「学科・コース等の設置等」という。）を行う計画であり、学位種類分野変更基準に定める工学関係の学位の分野に係るものであること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学期において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。
- ⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学科・コース等の設置等の取組であること。
- ⑧

機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学科・コース等の設置等を行う計画であること。
- ⑨

計画の対象となる学科・コース等の設置等において、20名以上の入学定員の増員を行う計画であること。
- ⑩

国立高等専門学校について、学校全体の収容定員の増員を伴う学科定員の増員を行う場合は、定員増を行った日から10年を経過した日までに、他学科・他コース等を中心に同規模の定員減を行う計画であること。
- ⑪

教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。
- ⑫

文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AⅠ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。

上記項目の①～⑫の申請要件について、令和7年度の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
すべての項目が要件を満たしている											

①～⑫の要件を満たしていない又は対象でない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑬については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑬,⑭について	現在の状況
⑬文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AⅠ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。	認定を受けている

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- ① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
津山市スマートシティ構想の幹事校として参画、津山市以外の近隣の自治体と連携を行うため協定を結んでいる。また、岡山大学と岡山県吉備中央町と連携し、吉備高原都市スーパーシティ構想へ参画している。 さらに岡山大学とは同大学が採択された地域中核・特色ある研究大学強化促進事業への参画をしている。 現在、津山高専技術交流プラザ会員企業および津山市、津山市商工会議所、近隣自治体と情報交換や共同研究（R5年度15件）企業向け出前講座（2件、20名）を行い、これらの関係部署より卒業研究のテーマを提案してもらい、実際に卒業研究で行っているテーマ（R5年度5件）もある。新しいプログラムを実施するうえで、企業との連携もこれまで以上に重要となり、連携ができるように進めていく予定である。さらに、これまで交流を行ってきた大学（岡山大学、美作大学、兵庫県立大学、神戸大学等）と連携をし、専門的な技術を講義として教授してもらう。	津山市スマートシティ構想の幹事校として参画、津山市以外の近隣の自治体とも連携を行うため協定を結んでいる。アントレプレナーシップ教育として、if Link 大喜利（津山市の企業）と、地域課題の解決に向けてアイデアを出し合う企画を津山市と協力して実施した。また、学生による先進技術を活用した、地域課題を解決する地域課題解決アイデアコンテスト（IoTラボコンテスト）を津山市と協力して実施した。 また、岡山大学との連携においては、同大学が採択された地域中核・特色ある研究大学強化促進事業に参画している。さらに、おかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム(OI-Start)にも参画し、非常勤講師としての情報人材の確保を行っている。 現在、津山高専技術交流プラザ会員企業および津山市、津山市商工会議所、近隣自治体と情報交換や共同研究（R7年度15件）、出前講座（R7年度8件）を行っている。プラザ会員企業から卒業研究のテーマを提案してもらい、実際に卒業研究のテーマとして採用している（R7年度12件）。 新しいプログラムを実施するうえで、企業との連携もこれまで以上に重要となり、連携ができるように進めていく予定である。さらに、これまで交流を行ってきた大学（岡山大学、美作大学、兵庫県立大学、神戸大学等）と連携をし、専門的な技術を講義として教授してもらう。	

- ② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
現在、地域からの要望により、小中学校での出前授業（20～30件/年）を実施している。 また、国立研究開発法人科学技術振興機構の次世代科学技術チャレンジプログラムにより、小中学生対象の次世代人材育成を行う「つやまSTEAM人材育成塾」を実施中である。 さらに、公開講座・出前授業もいろいろな分野において、実施している。その数は、公開講座（4件＋夏休み科学教室）合計430名、小中学校出前授業（21件）650名となっている。一例を以下に示す。 （公開講座の一例）・夏休み科学教室、・化学実験教室「知ってる？知らない？化学の常識・非常識」、・littleBits（リトルビット）を用いて電子工作・プログラミングの基礎を学ぶ）、など （出前授業一例）・電子回路工作「LED点滅器を作ろう」、・かわったかたちの風車をつくろう、など 支援期間においても、これらの連携を継続していく計画である。	国立研究開発法人科学技術振興機構の次世代科学技術チャレンジプログラムにより、小中学生対象の次世代人材育成を行う「つやまSTEAM人材育成塾」を実施中である。また「つやまSTEAM人材育成塾」を修了した中学生から本校を受験する生徒も増えており、令和7年度入学者で12名、令和8年度入学者は9名となっている。 また、公開講座・出前授業もいろいろな分野において、実施している。その数は、公開講座（6件＋夏休み科学教室）合計391名、小中学校出前授業（18件）460名となっている。 （公開講座）夏休み科学教室、化学実験教室、タンパク質のはたらきを見てみよう！、littleBits（リトルビット）を用いて電子工作・プログラミングの基礎を学ぶ）、など （出前授業）電子回路工作、かわったかたちの風車をつくろう、など 支援期間において引き続き、これらの連携を継続していく計画である。	

- ③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本校は、国際交流に力を入れており、国際寮の運営も行っている。留学生の総数は現在23名、全国の高専の平均の2倍以上の留学生が在学している。 特にタイとの交流において、タイから1年生へ毎年2名入学、タイ高専からの編入学生も初年度（H31）から継続して受け入れている。さらに、編入学以外に、タイ高専学生の研修受け入れ（高専機構本部主導）を2年間（2025、2026）実施予定である。今後も継続的に留学生を受け入れていく予定である。特に、情報技術に興味を持つ留学生も多くなっているため、優秀な留学生確保のための今回の事業の情報提供も行っている。 女子学生の確保に関しては、以前1割程度であったが、現在の1学科になってから約2割の女子学生が在学している。先進科学系や情報システム系は女子学生の希望者が多い現状である。そして、本支援期間において情報人材を増やすことで、女子学生の増加が期待できる。	本校は、国際交流に力を入れており、国際寮の運営も行っている。留学生の総数は現在19名、全国の高専の平均の2倍近くの留学生が在学している。 特にタイとの交流において、タイ高専からの編入学生を初年度（H31）から継続して受け入れている。さらに、編入学以外に、10月6日～30日に、タイ高専学生20名の研修を受け入れ、総合理工学科全体で交流を行った。今後も継続的に留学生を受け入れていく予定である。特に、情報技術に興味を持つ留学生も多くなっているため、優秀な留学生確保のための今回の事業の情報提供も行っていく。令和8年度にもタイから情報系学生20名程度の短期留学（1ヶ月程度）が計画されている。 女子学生の確保に関しては、以前1割程度であったが、現在の1学科になってから約2割の女子学生が在学している。さらに令和8年度本科入学の女子学生が3割に増えた。先進科学系や情報システム系は女子学生の希望者が多い現状である。そして、本支援期間において情報人材を増やすことで、女子学生の増加が期待できる。	

- ④ 他の大学（外国大学を含む）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
岡山大学及び岡山県吉備中央町と連携し、吉備高原都市スーパーシティ構想へ参画している。 また、岡山大学とは、津山市や原子力開発機構（岡山県鏡野町）で協定を結んで、毎年、講演・交流等を行っている。 さらに同大学が採択された地域中核・特色ある研究大学強化促進事業への参画をしている。 さらに、これまで交流を行ってきた国内外の大学（岡山大学、美作大学、兵庫県立大学、神戸大学、大連東南信息学院等）と連携をし、共同研究、相互授業を行っており、また、専門的な技術を講義として教授してもらう計画もある。 例えば、以前より大連東軟信息学院と研究、学生交流、教員交流に関して協定を結び現在も交流を継続している。プリンセスチャロボンサイエンス高校（タイ）や永進専門学校（韓国）と協定を結び、学生の交流を行っている。また、兵庫県立大学各学部と推薦入試の協定を結んで、より専門的な教育を受けられるようにしている。また、同大学といくつかの高専とで研究交流会を行っている。	岡山大学及び岡山県吉備中央町と連携し、吉備高原都市スーパーシティ構想へ参画している。 アントレプレナー教育における事業者との交流会（岡山大学起業部、地元NPO法人）で、岡山大学起業部の学生と共に自ら課題を設定し、解決策を導き出す方法を学ぶ取組みを実施した。 また、岡山大学との連携においては、同大学が採択された地域中核・特色ある研究大学強化促進事業に参画している。さらに、おかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム(OI-Start)にも参画し、非常勤講師としての情報人材の確保を行っている。 さらに、これまで交流を行ってきた国内外の大学（岡山大学、美作大学、兵庫県立大学、神戸大学、大連東南信息学院等）と連携し、共同研究、相互授業を行っており、また、専門的な技術を講義として教授してもらう計画も進めている。 例えば、以前より大連東軟信息学院と研究、学生交流、教員交流に関して協定を結び、現在も交流を継続している。プリンセスチャロボンサイエンス高校（タイ）や永進専門学校（韓国）と協定を結び、学生の交流を行っている。また、兵庫県立大学各学部と推薦入試の協定を結んで、より専門的な教育を受けられるようにしている。また、同大学といくつかの高専とで研究交流会を行っている。	

- ⑦ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AⅠ教育プログラム認定制度について、申請要件である「リテラシーレベル」に係る要件を満たすのみならず、更に「応用基礎レベル」の認定を受けている、又は「応用基礎レベル」の認定を受ける計画があるか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
「リテラシーレベル」は認定済みである。「応用基礎レベル」の認定に向けて検討中であるが、認定されれば、新しいカリキュラムに変更されるので、応用基礎レベルを考慮して、授業内容を考え、申請ができるように計画する予定である。	「リテラシーレベル」は認定を受けている。また、令和7年度に数理・データサイエンス・AI教育プログラム「応用基礎レベル」の認定を受けた。	

高等専門学校名	津山工業高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
---------	------------	------	-------------------

2.情報系組織の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分		小区分	項目	単位	選定	開設																
	入学者合計	入学定員 (A)		人	40	40	100															
		入学者数 (B)		人	45	40	100															
		女子学生数		人	9	3	0															
		社会人学生数		人	0	0	0															
		留学生数		人	0	1	0															
		入学定員充足率 (B/A)		倍	1.13	1.00	1.00															
	収容定員等	収容定員(C)		人	200	200	260															
		編入学定員		人	0	0	0															
		在籍者数(D)		人	229	226	278															
		編入学者数		人	1	2	0															
		収容定員充足率 (D/C)		倍	1.15	1.13	1.07															
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数		人	46	47																
		就職者数		人	25	30																
		進学者数		人	19	17																
		その他		人	2	0																
		進路不明		人	0	0																
教員の状況	実務経験のある教員の 参画	教員数		人	6	4	6															
		授業科目の単位数		単位	29	37	38															

3.高等専門学校全体の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分		小区分	項目	単位																		
	入学者合計	入学定員 (A)		人	160	160	160															
		入学者数 (B)		人	168	164	166															
		入学定員充足率 (B/A)		倍	1.05	1.03	1.04															
	収容定員等	収容定員 (C)		人	800	800	800															
		編入学定員		人	0	0	0															
		在籍者数 (D)		人	844	839	836															
		編入学者数		人	2	4	0															
		収容定員充足率 (D/C)		倍	1.06	1.05	1.05															

4.外部資金の状況（全学）

年度		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
項目		単位																		
外部資金獲得額		千円	66,780	71,291																

特記事項

・事業対象の3プログラム、情報系組織の状況について、2年次で系配属のためR8年度は入学定員を入学者数とみなし回答した。 ・事業対象の3プログラムについて、2年次で系配属のためR8年度は入学定員を在籍者数とみなし回答した。 ・「情報系組織の入学者数等」のR7年度をみなし人数から実績人数へ変更した。（入学者数 4 0 人→4 0 人、女子学生数 8 人→3 人、社会人 0 人→0 人、留学生 0 人→1 人） ・「情報組織の状況・高等専門学校全体の状況」の編入学定員 0 人とは、若干名を意味している。
--